



鬼神様

と

巫女

80

ページ

子宝祈願の生贄で
来たはずなのに
鬼の神様に溺愛される



巫女様
こんにちは

今日も
お参りさせて
もらいますね

こんにちは！



この村は

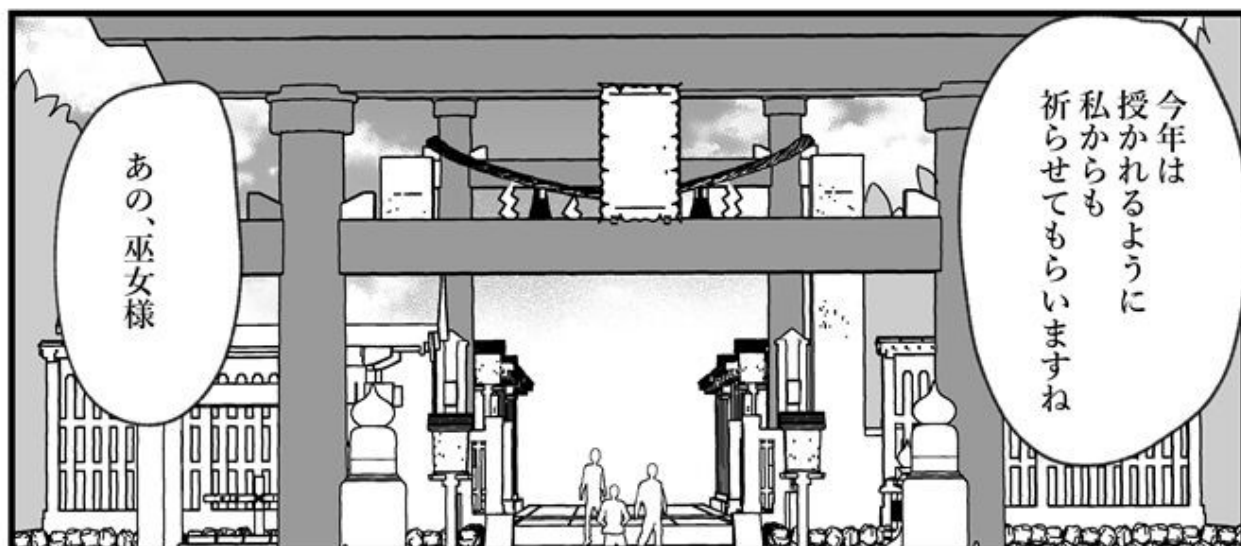


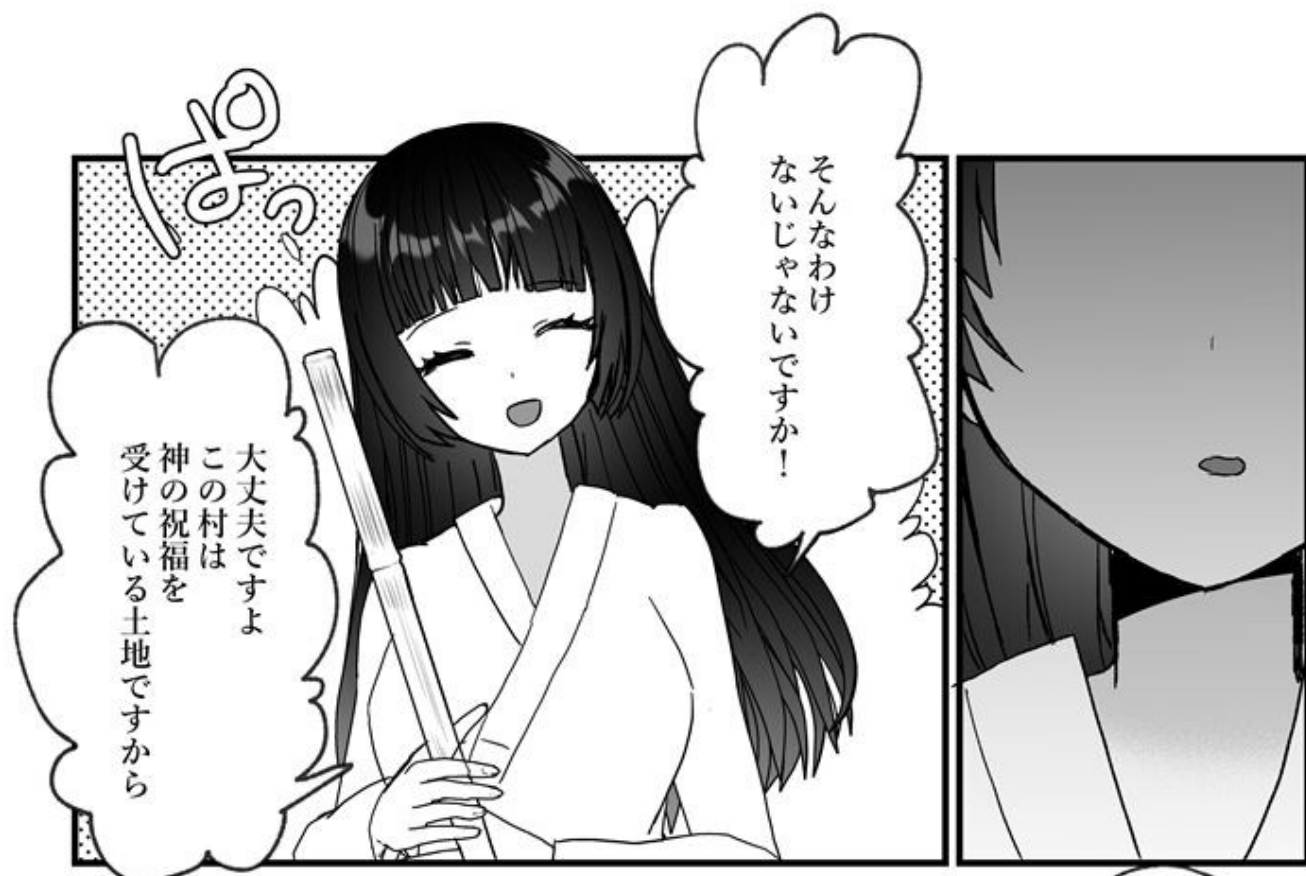
今年こそどうか
子宝を
授かりますように



氣候が穏やかで穀物も豊かに実る
神に愛されし土地ですが、
ある時から子どもがびたりと
生まれなくなってしまうました

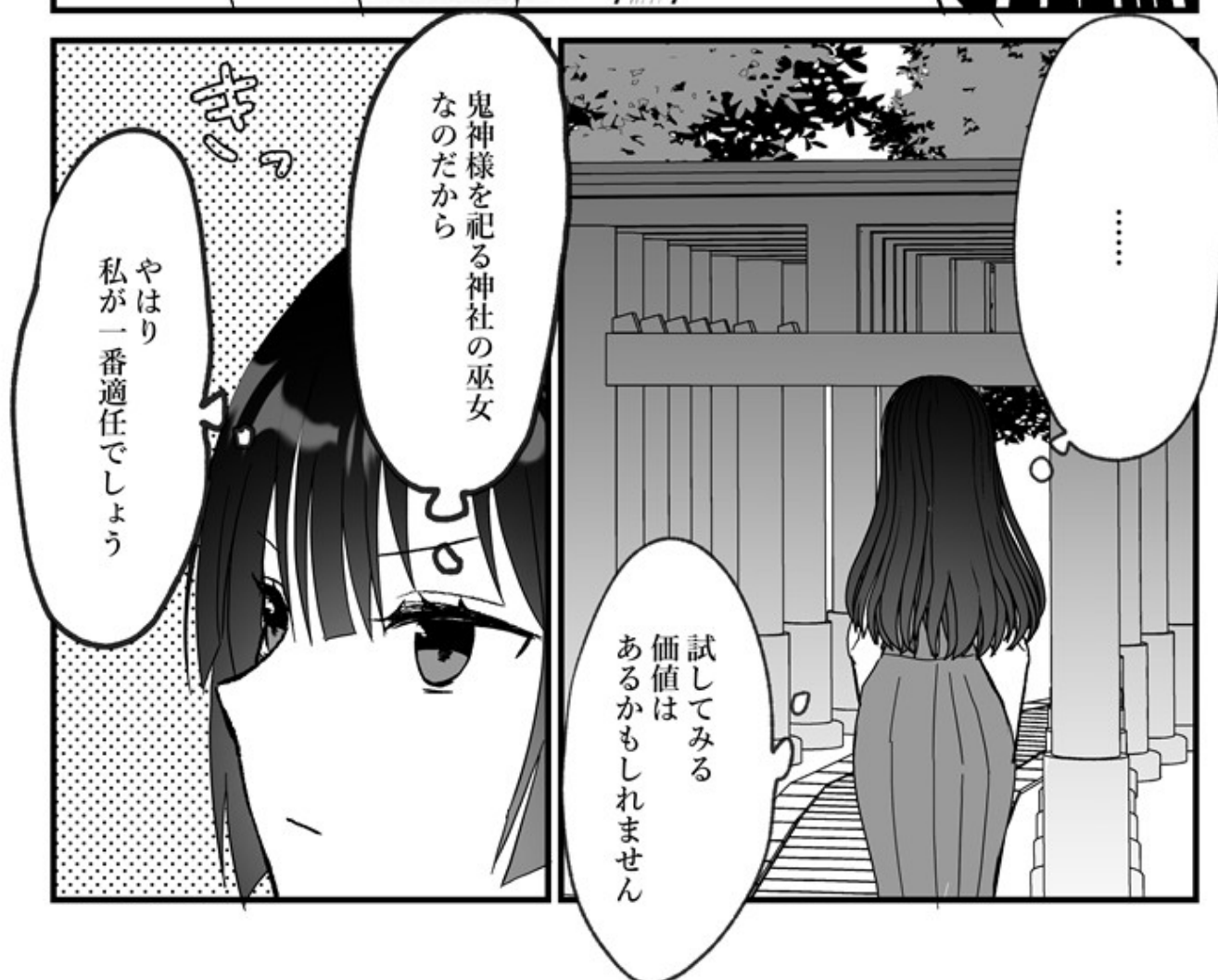
そのため、この神社へ
神へ祈る人が増えています







生贄が必要なら
この村の巫女である
私がいくべきでは
ないでしょうか



鬼神様を祀る神社の巫女
なのだから

やはり
私が一番適任でしょう

試してみる
価値は
あるかもしれません

...

この命と引き換えに、
村が救われるならば本望です！



はい
ここまで送っていただいて
ありがとうございます

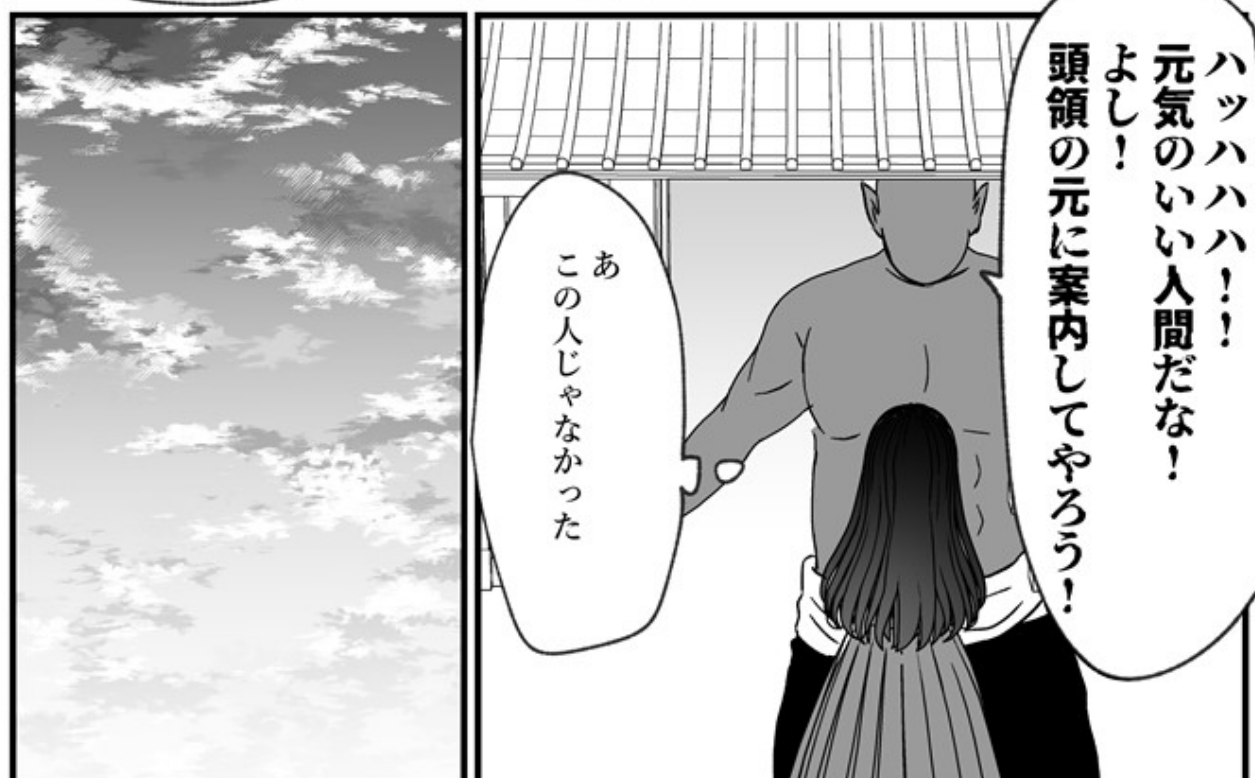
本当に
1人で大丈夫かい？



とても
立派な
お屋敷です……！

ごめんください！

きゅん

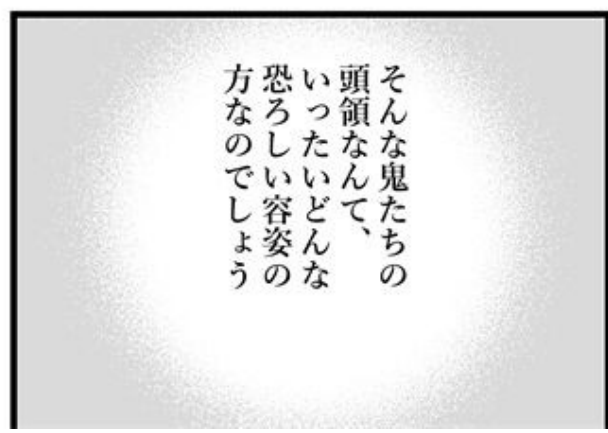




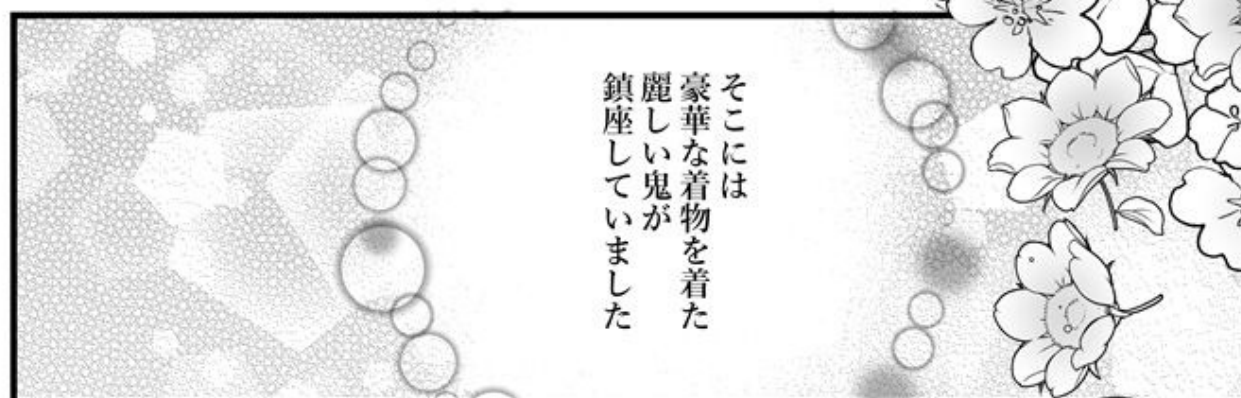
村人たちは
無事に帰れたのでしょうか
……

みなしごの自分を
ここまで育ててくれた村人達に
私は心から感謝をしているのです

捧げものとして
来たという娘はお前か







そこには
豪華な着物を着た
麗しい鬼が
鎮座していました



これはまた
可愛らしい娘が来たものだ

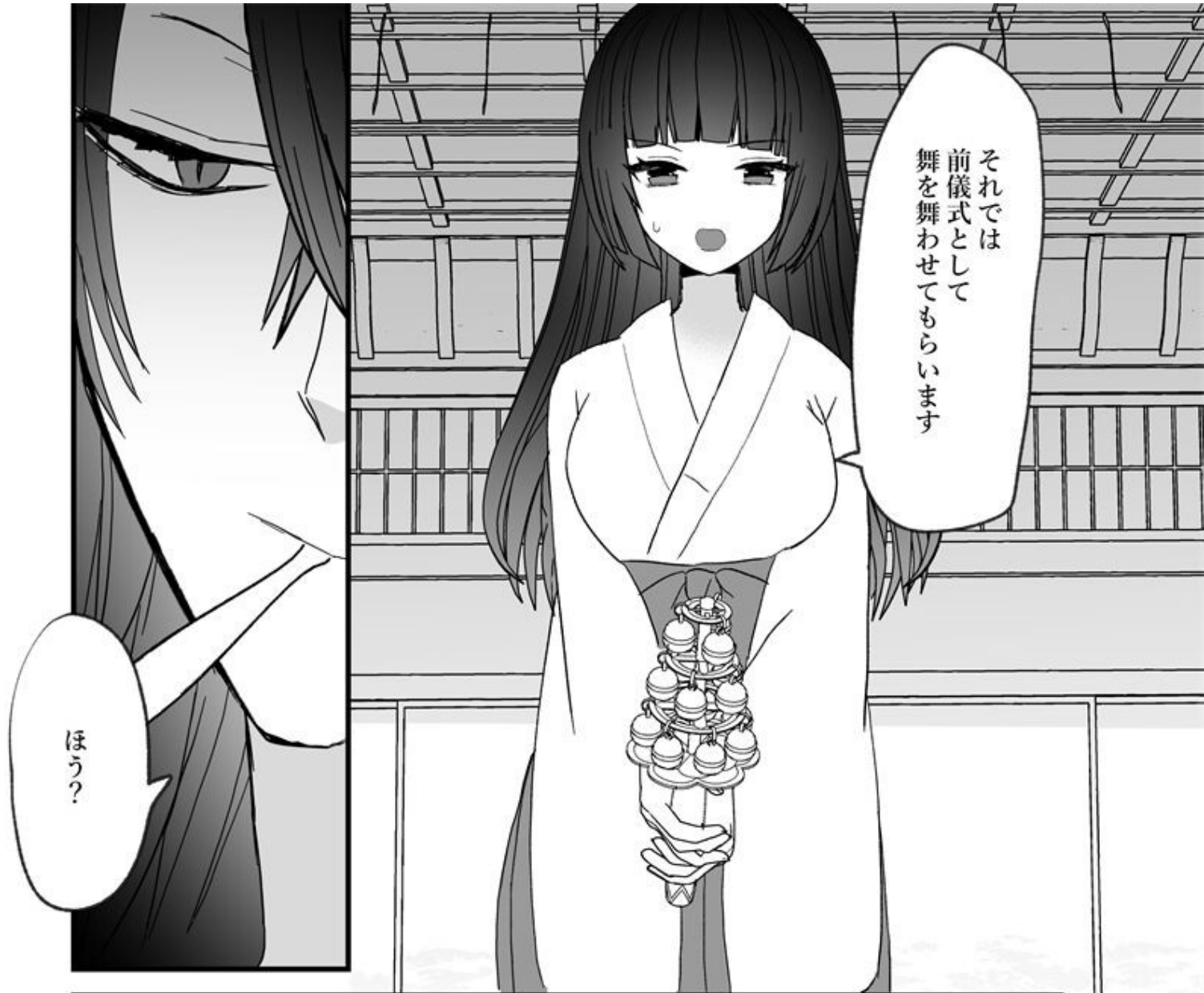


村の長から
聞いているぞ

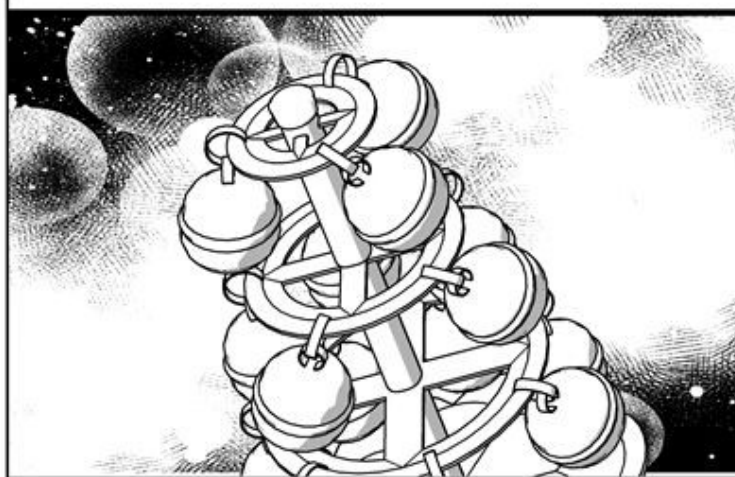
お前だろう？
俺に身を捧げに
来た者は

いけません……！！
つい見とれて
しまいました！

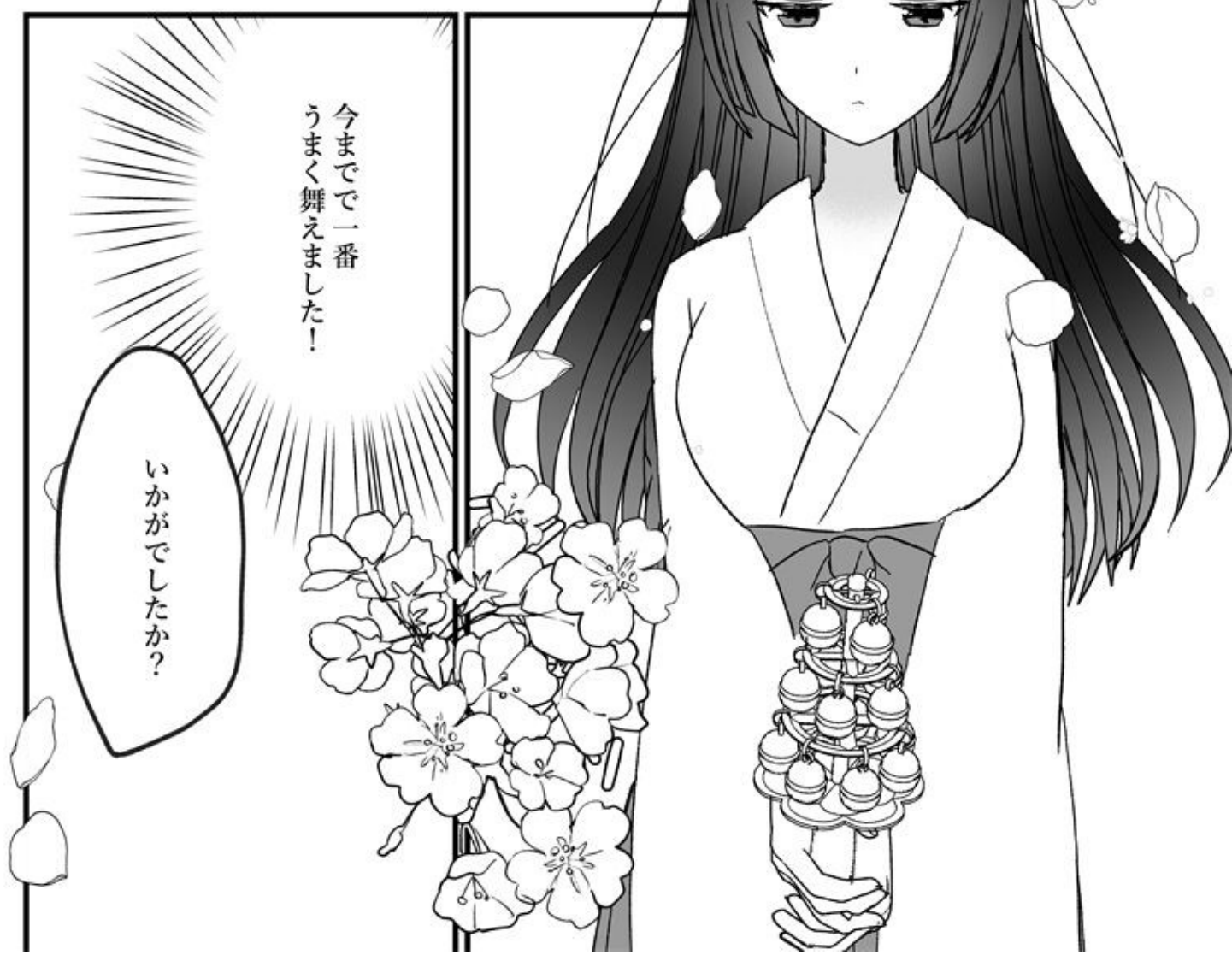
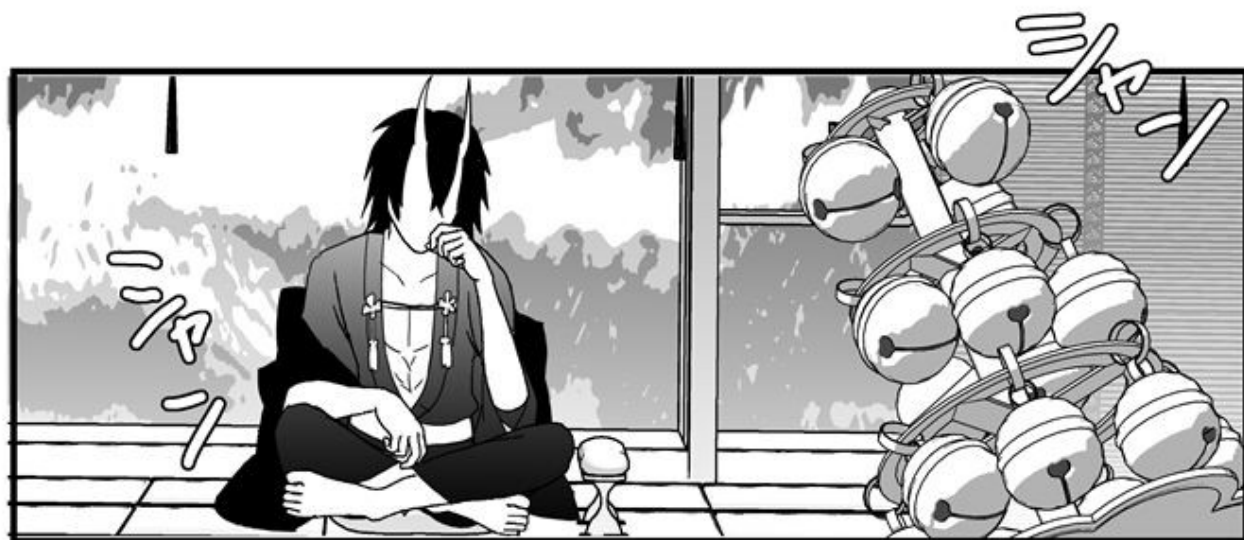
はい！



生贄自体は
ここずっとありませんでしたが
村の祭りで
巫女はその舞は踊るから
その作法を知っていました

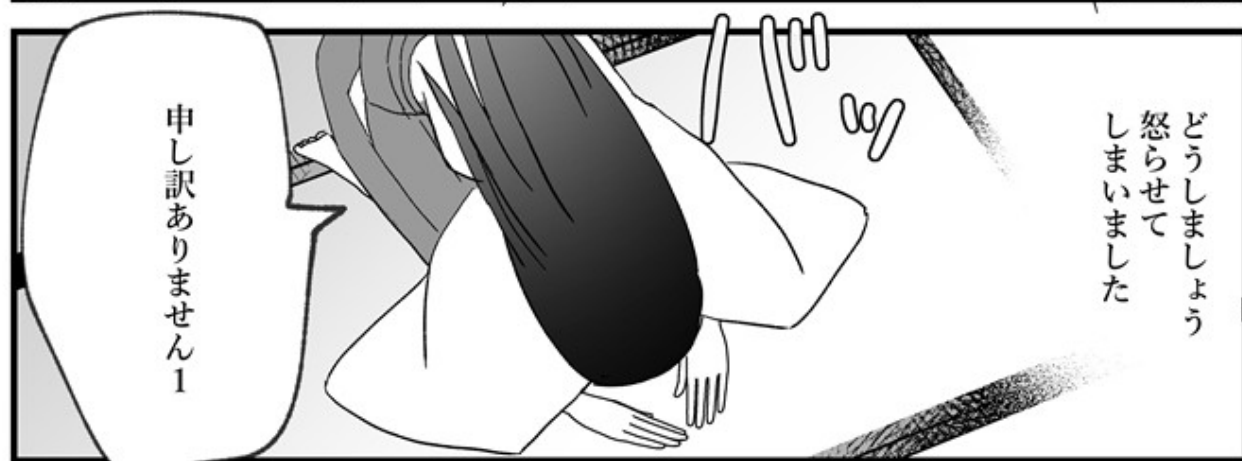


生贄になる前の儀式として
舞を舞う風習がありました



今までで一番
うまく舞えました！

いかがでしたか？





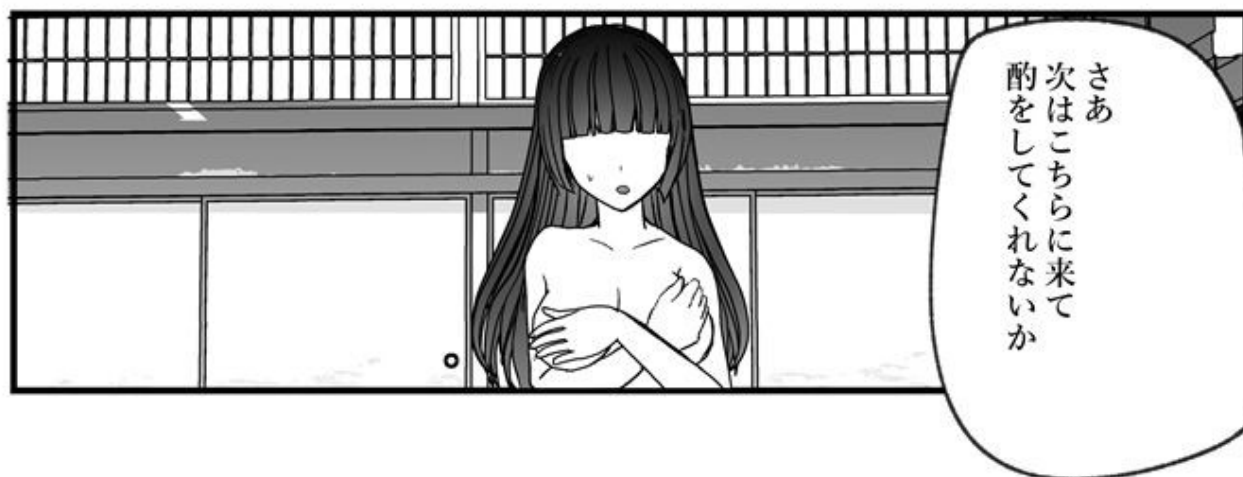
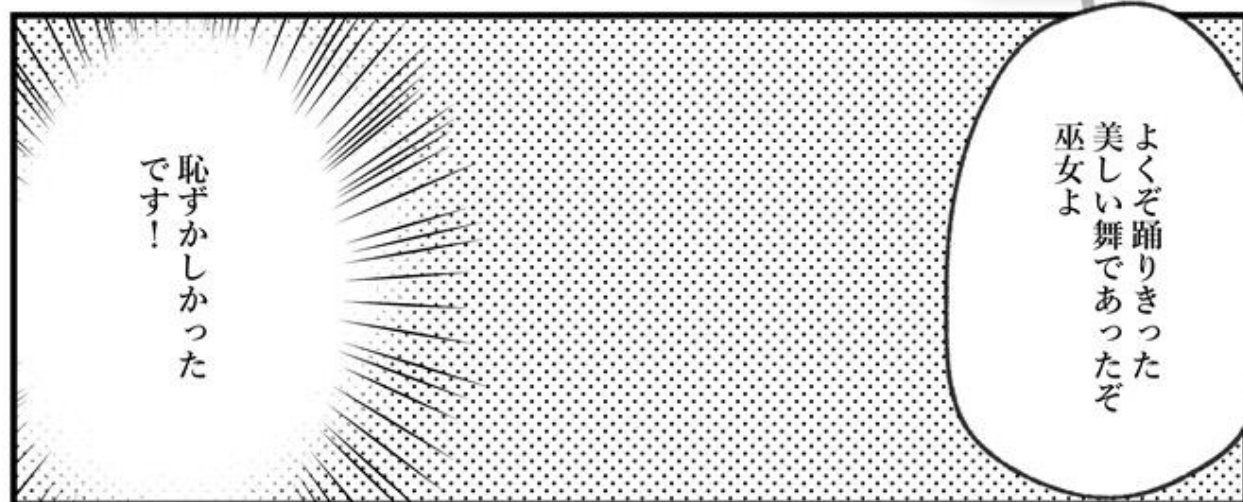
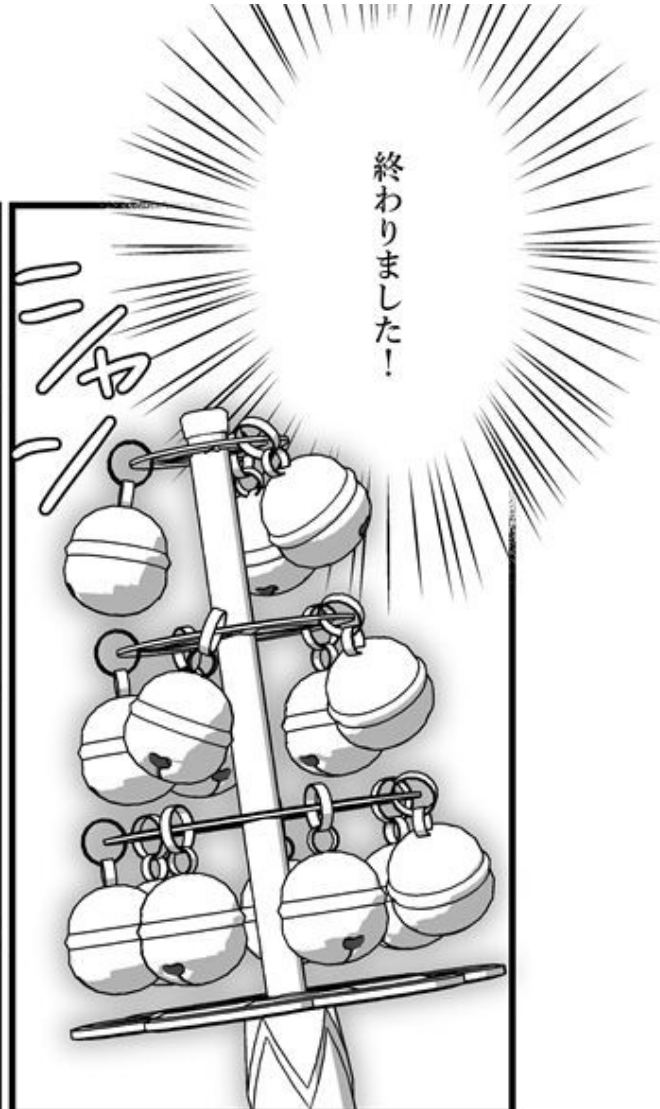
まさか巫女ともあろうものが
この神聖な儀式を
恥ずかしいと
いうわけでもないだろうな？

こうなれば
ヤケです！

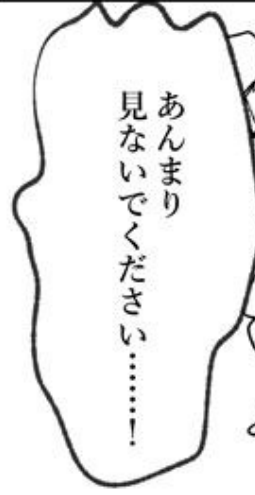
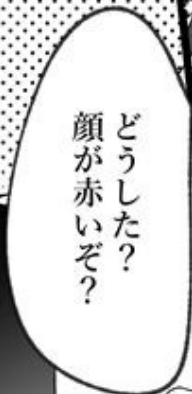
全部
見られてます……
鬼神様に……

私の裸……



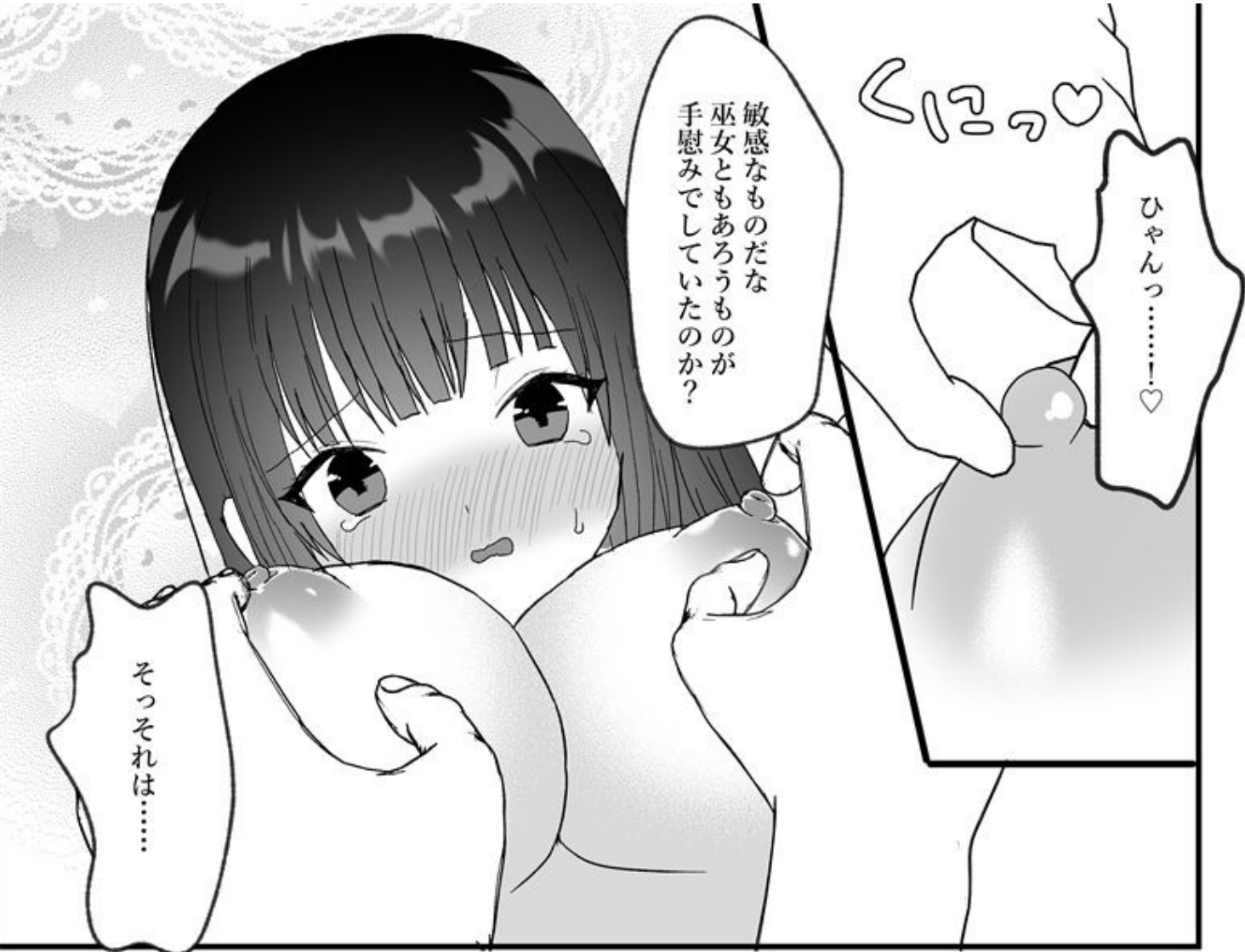




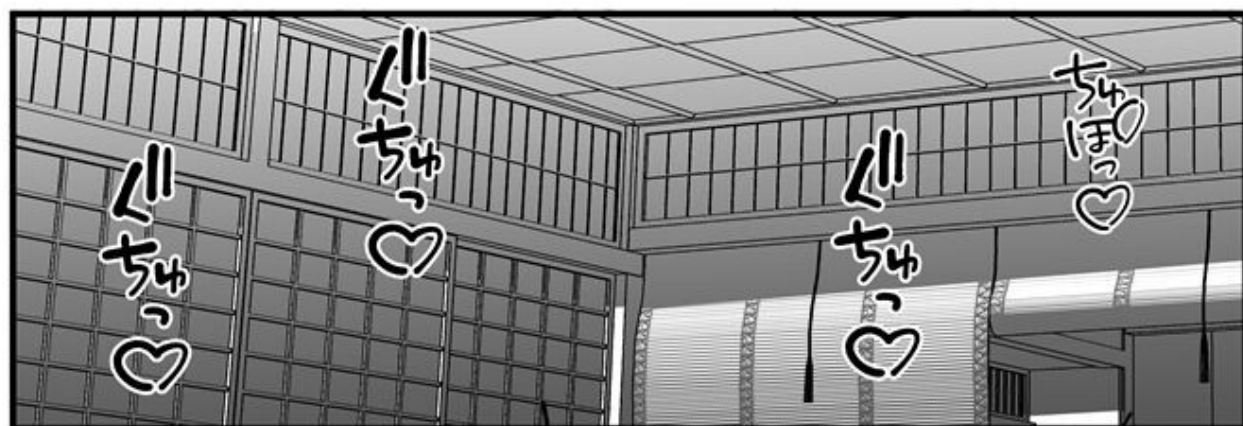


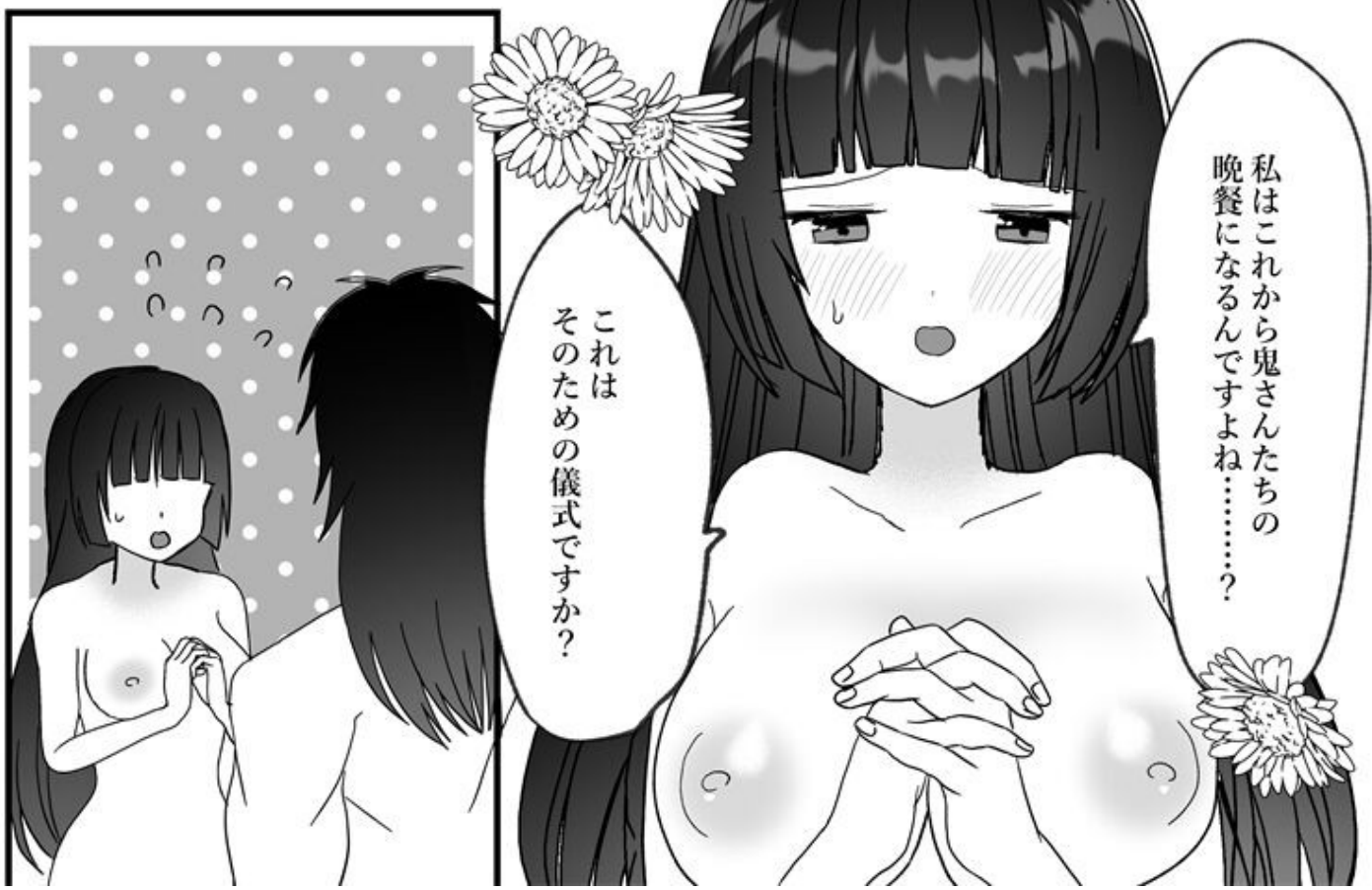
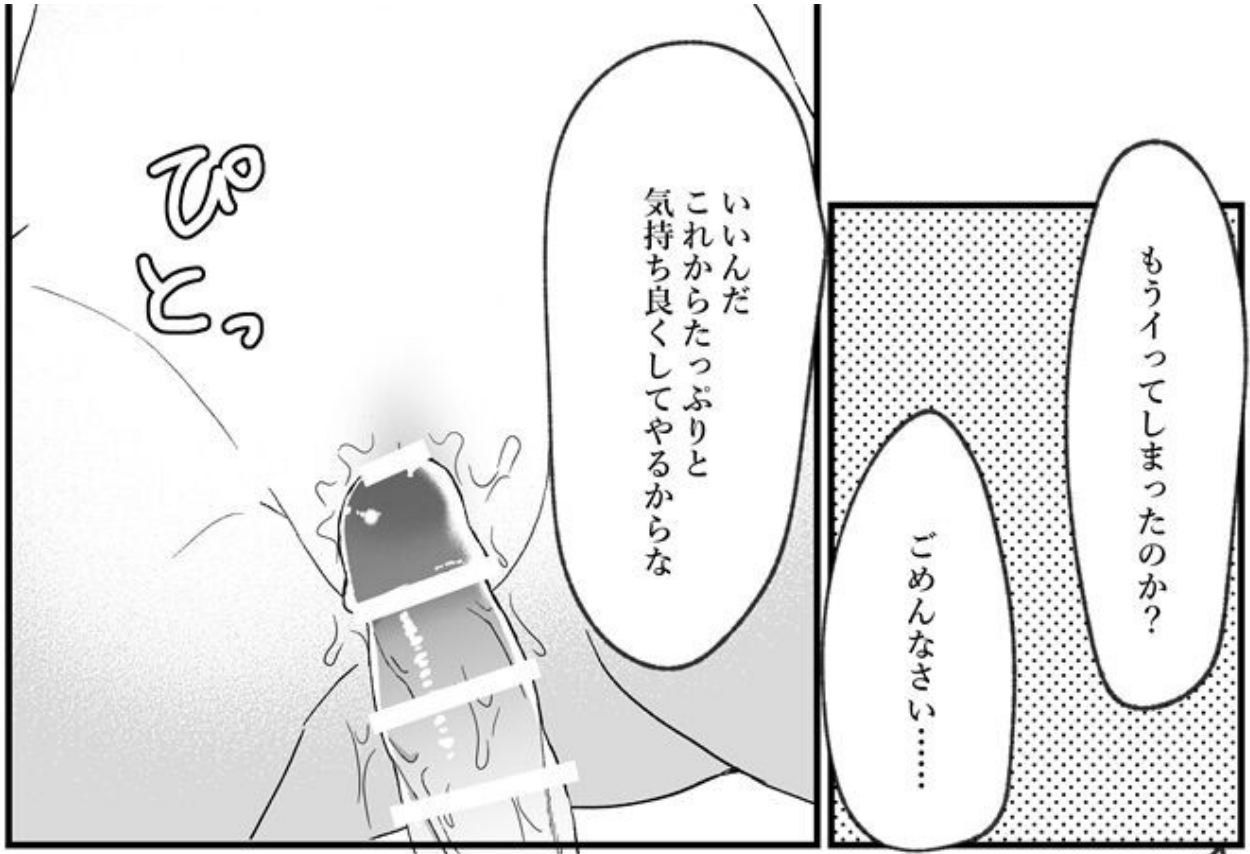














これは
夫婦の初夜のまぐわいに
決まっているだろう？

めおと……！？



生贄を捧げると宣告したはずが
いつの間にか嫁入りの話に
なっていたようでした



あっはっは！！
これは傑作だ！

どうりで先ほどから
様子がおかしいと
思ったらそういうことか

我々は人など食わん
だから贄などいらぬ
それに……



我が花嫁を
他の鬼共に指一本だつて
触れさせてやるものか

鬼神様……



さあ、巫女よ
俺に純潔を捧げろ





動くぞ



なじんできたな

んん…



ひああ

あ、あ、あ





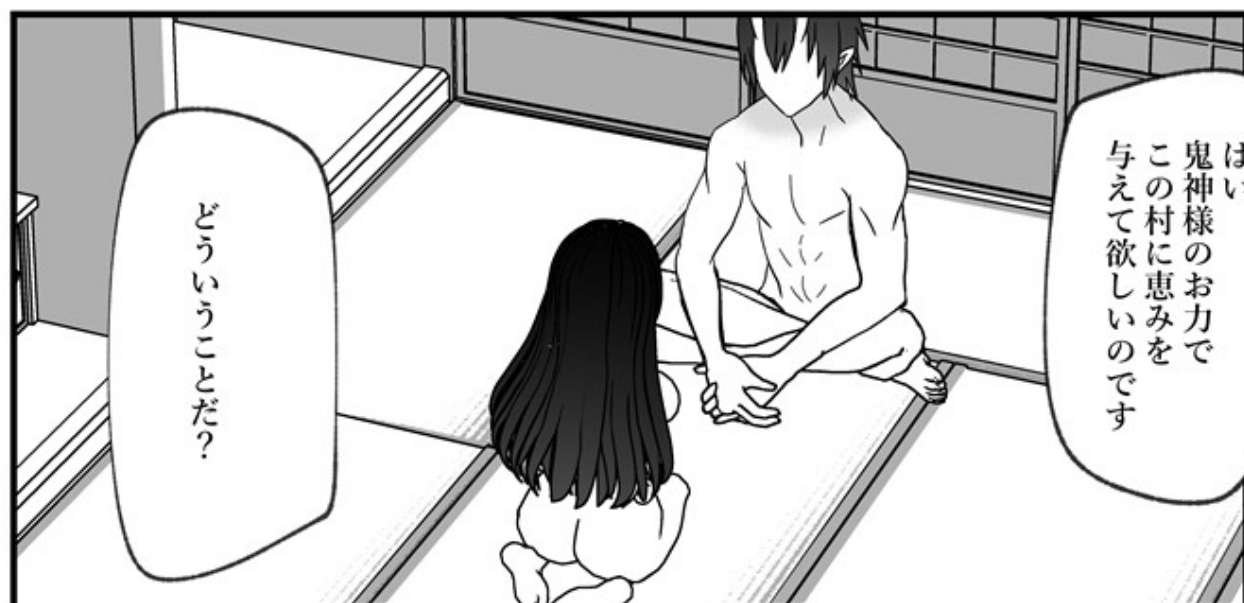
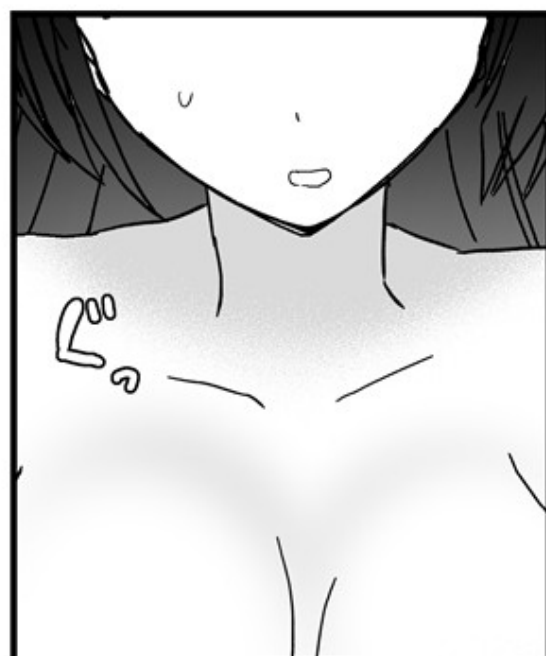
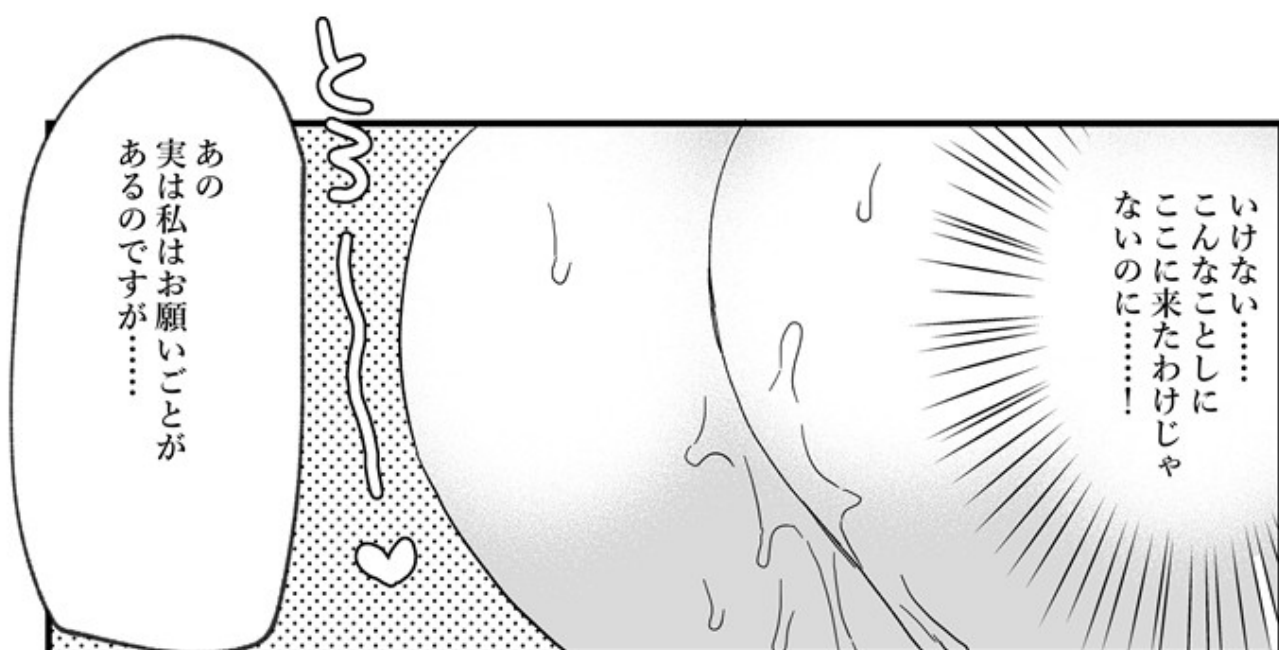


それからというもの
私は毎日のように
鬼神様に
抱かれ続けました







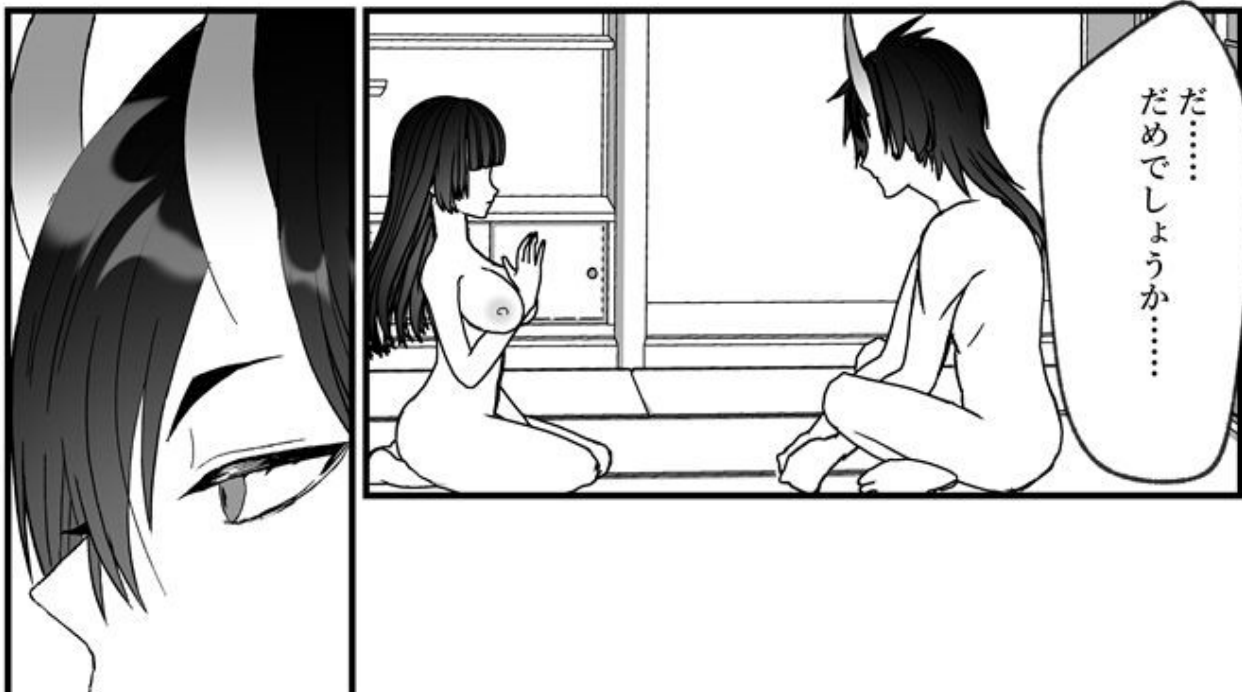


村は今子宝にとんと恵まれず
危機に陥っています

そこでどうか
鬼神様の精力を村の者たちに
分け与えていただきたいのです



ここ数日抱かれて
鬼神様の精力は
凄まじいものだ
と実感しました



だ……
だめでしょうか……

そう来たか

良いだろう
我が妻の
頼みとあらば断れん

やった！

ぽっ

本当ですか!?

ああ
ただし楓も
手伝ってもらう

お手伝いでございますか？
……私が出来ることなら
喜んでなんでも
協力いたします！

いったい
どんな
お手伝いでしょうか？

それはだな……

アキラ子やのやのや
るやややのやや

アキラ子やのやのや
るやややのやや

ええー!?

ふもとの村



鬼神様の提案で、
子宝祈願の祭りを
することになったので

私は故郷の村へ
帰郷すること
になりました

わん
しゅい

わん
しゅい



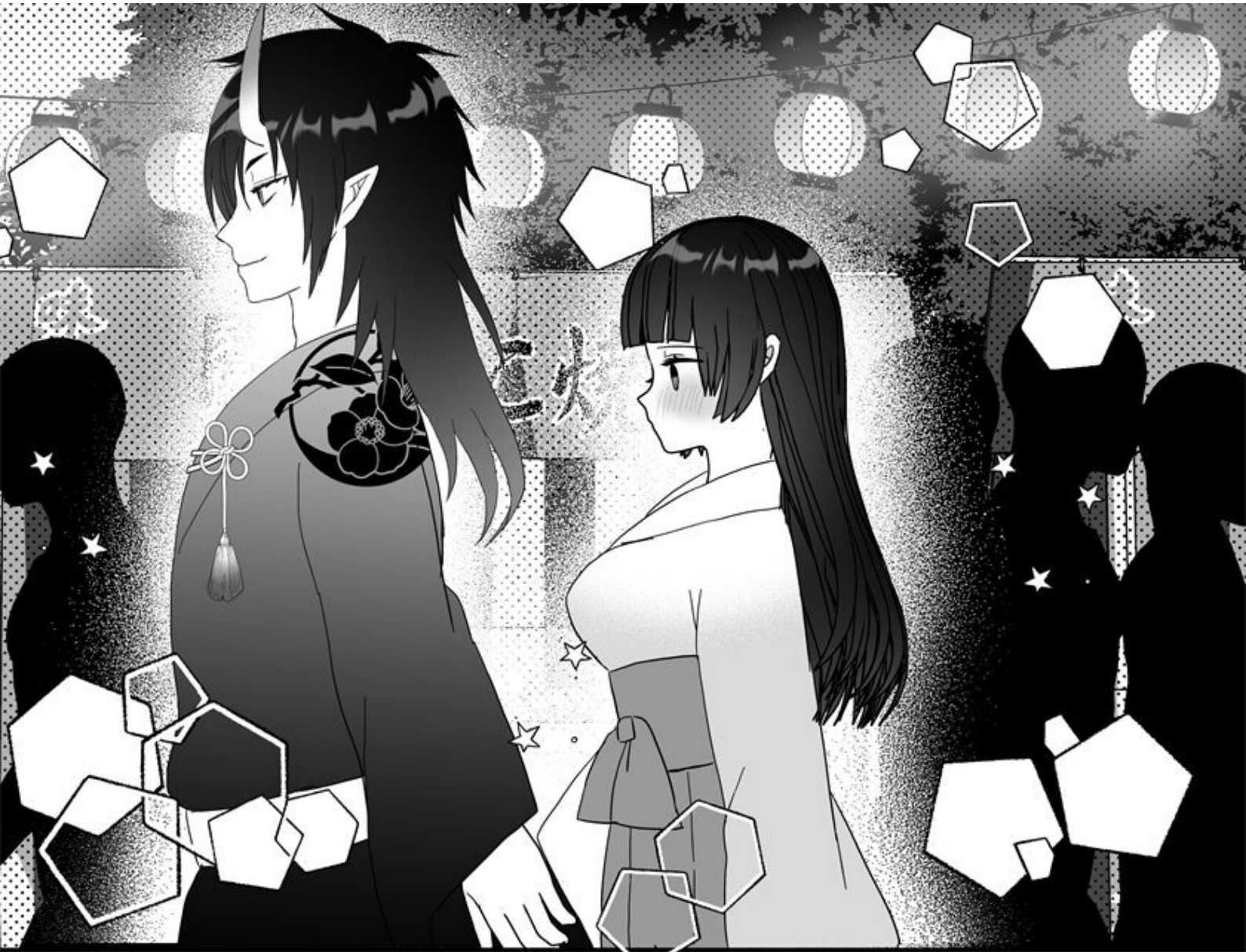
巫女様！
お帰りなさいませ！

楓お姉様！
無事だったんですね！



我々も祭りを
巡ろうではないか





ほら行くぞ
俺の背に
乗るといい

ひょいっ

きやう

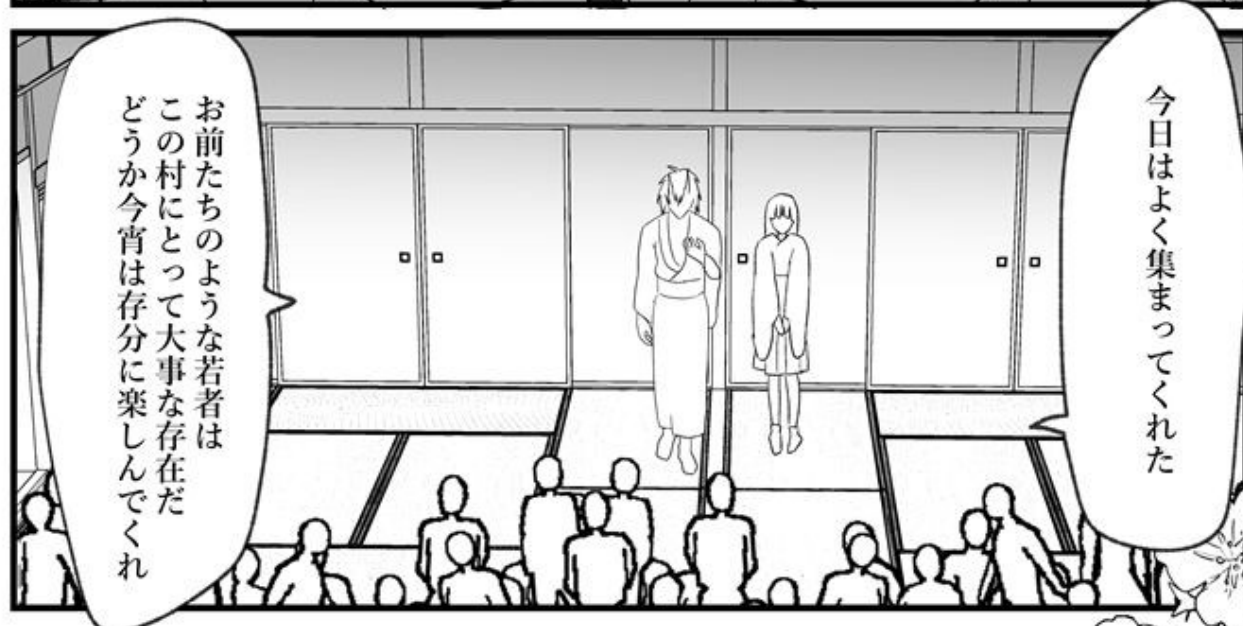
ここからは
少し歩くからな

しっかり掴まっている

広くて
安心する
背中……

本当に
夫婦になった気分です





我が妻により
この村の事情を聞いている

この村の守護神として
見過ごせぬと思い
山よりおりて
皆の前に姿を見せることにした

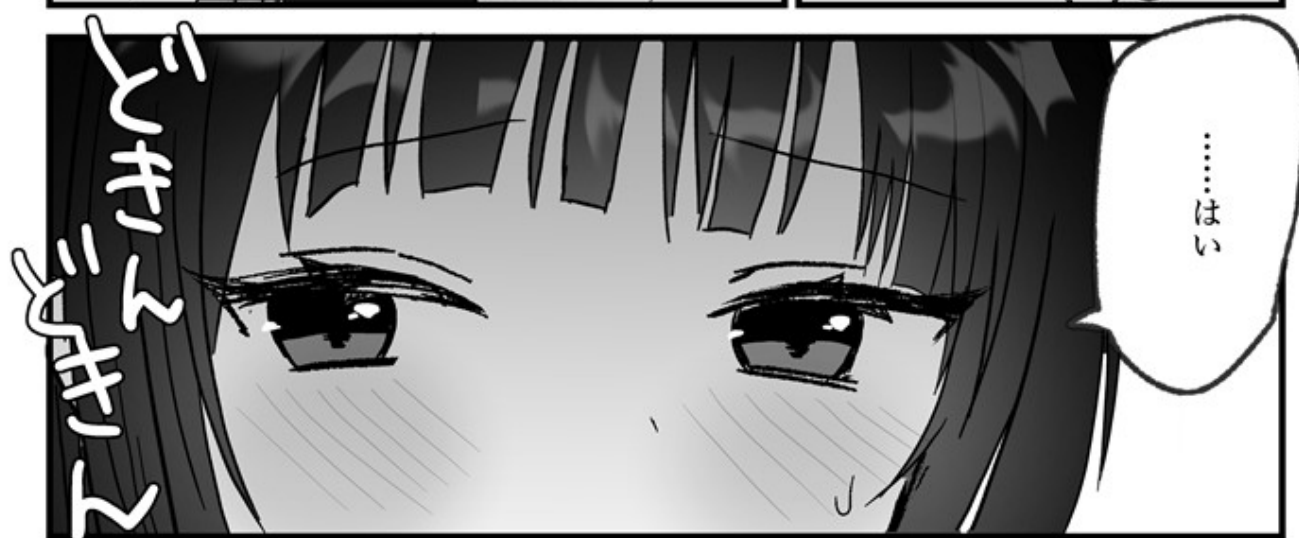
そこで今夜は
みなが子宝に
恵まれるように
特別な儀式を
執り行うことにしたのだ

それは
一体どんなものですか!?

わあああ

あああ!

わああああ



それでは
儀式を始める

は
ら
り





すっ

くっ

びん
びん

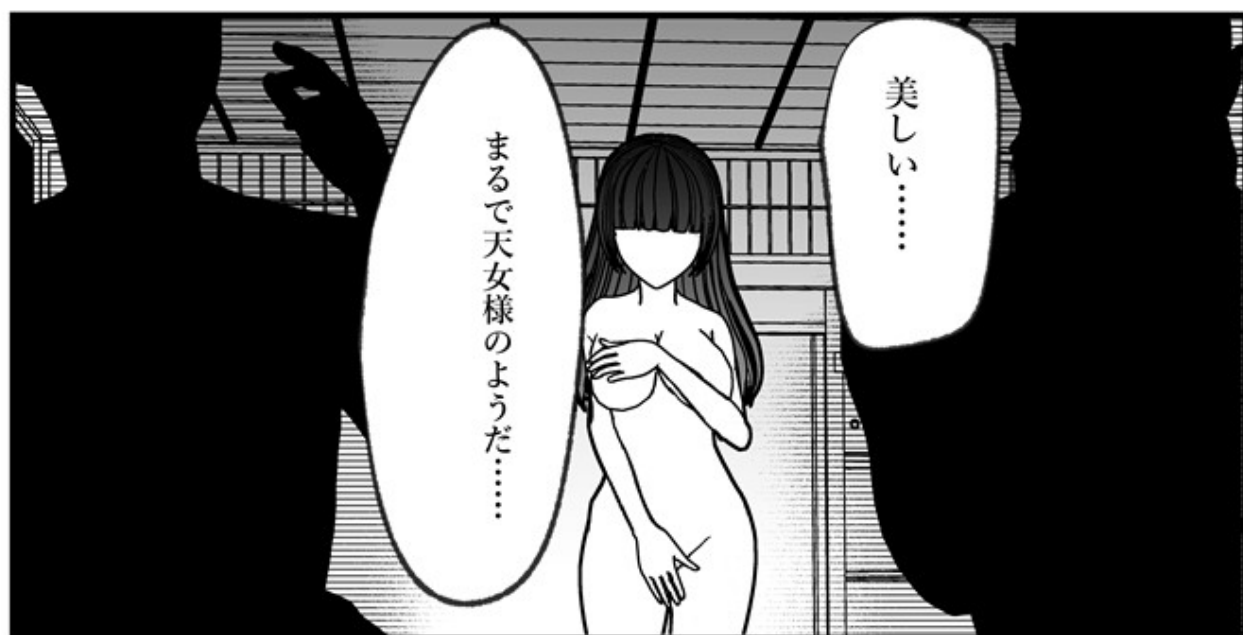
びん

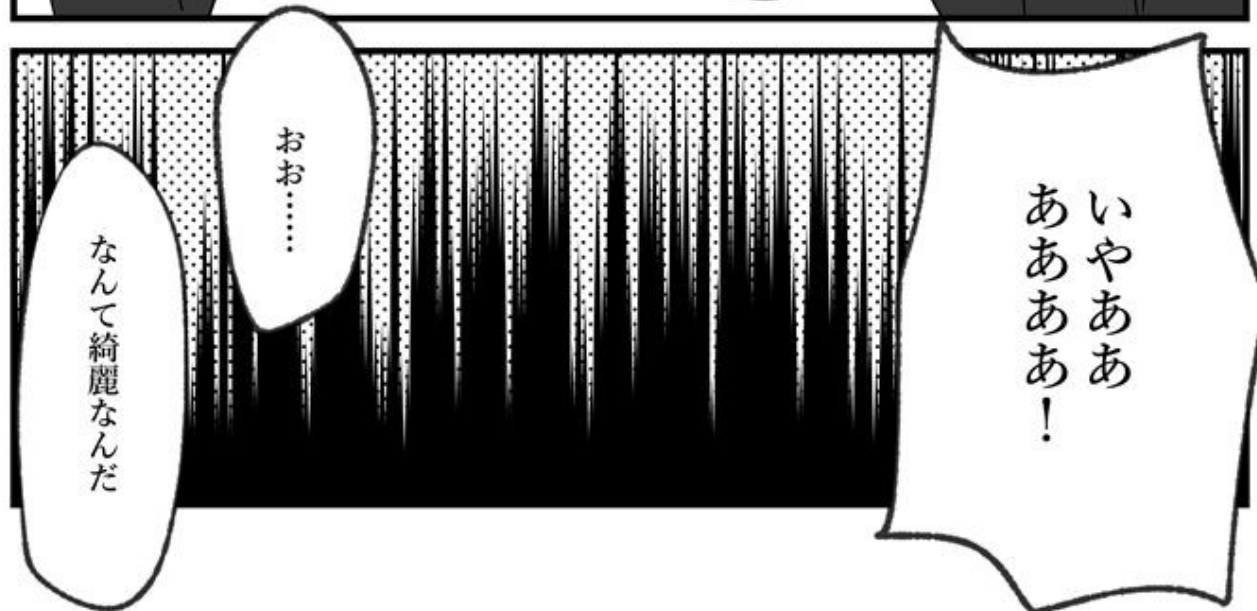
びん
びん
びん

ああ……みんな見てる……
私の恥ずかしいところ……

びん

びん









どうだ？
感じるか？

はい……
すごく感じます……♡

ぬいぽっ
ぬいぽっ
ぬいぽっ

ふふふ♡

ぬいぽっ

♡ふふふ♡
♡ふふふ♡
♡ふふふ♡

はあ、はあ……
おねがいします……
どうかもっと触ってください……

カッパッ♡

びゅん♡

まったく、淫乱な妻だ



お姉さま……

あんなに乱れて……

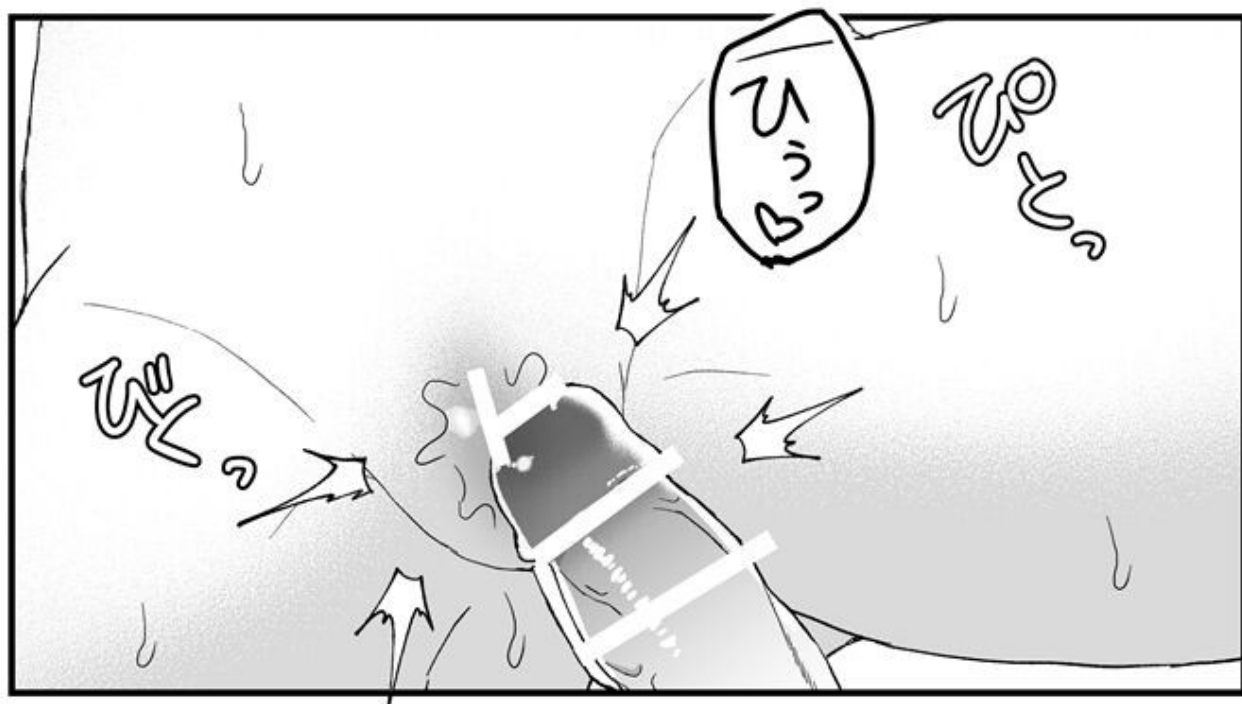
なんとみだらな……

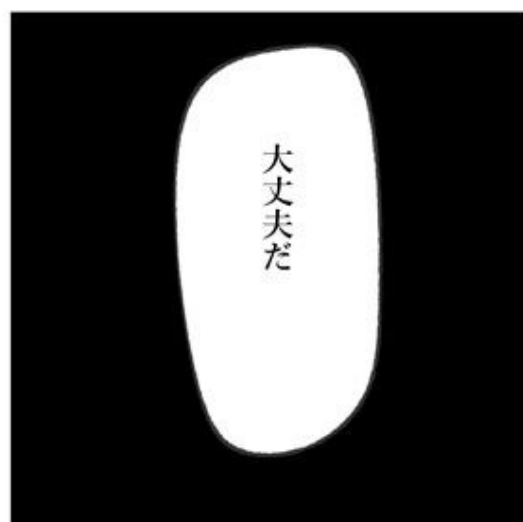
あぁあぁあぁ

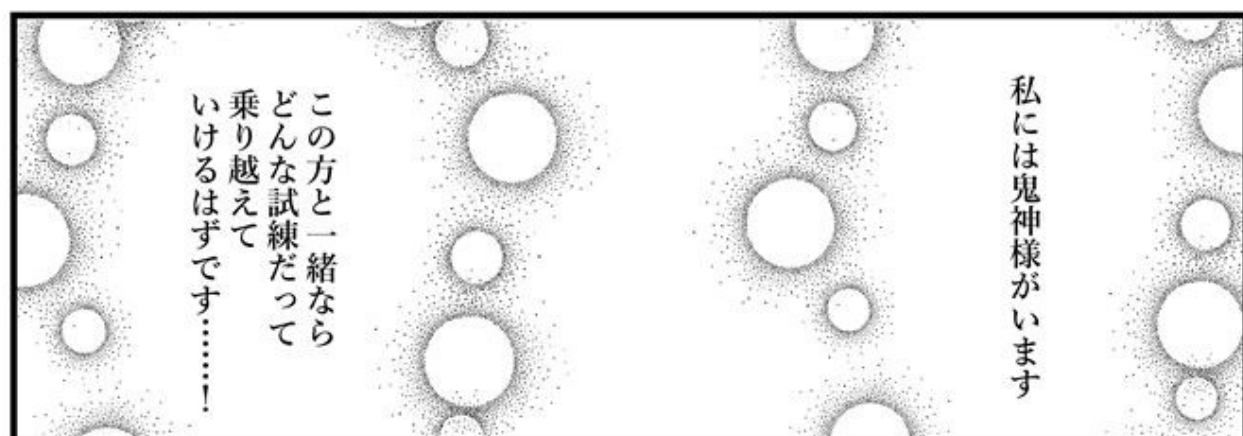
いくつ……
いきましゅうううう♡♡♡

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ



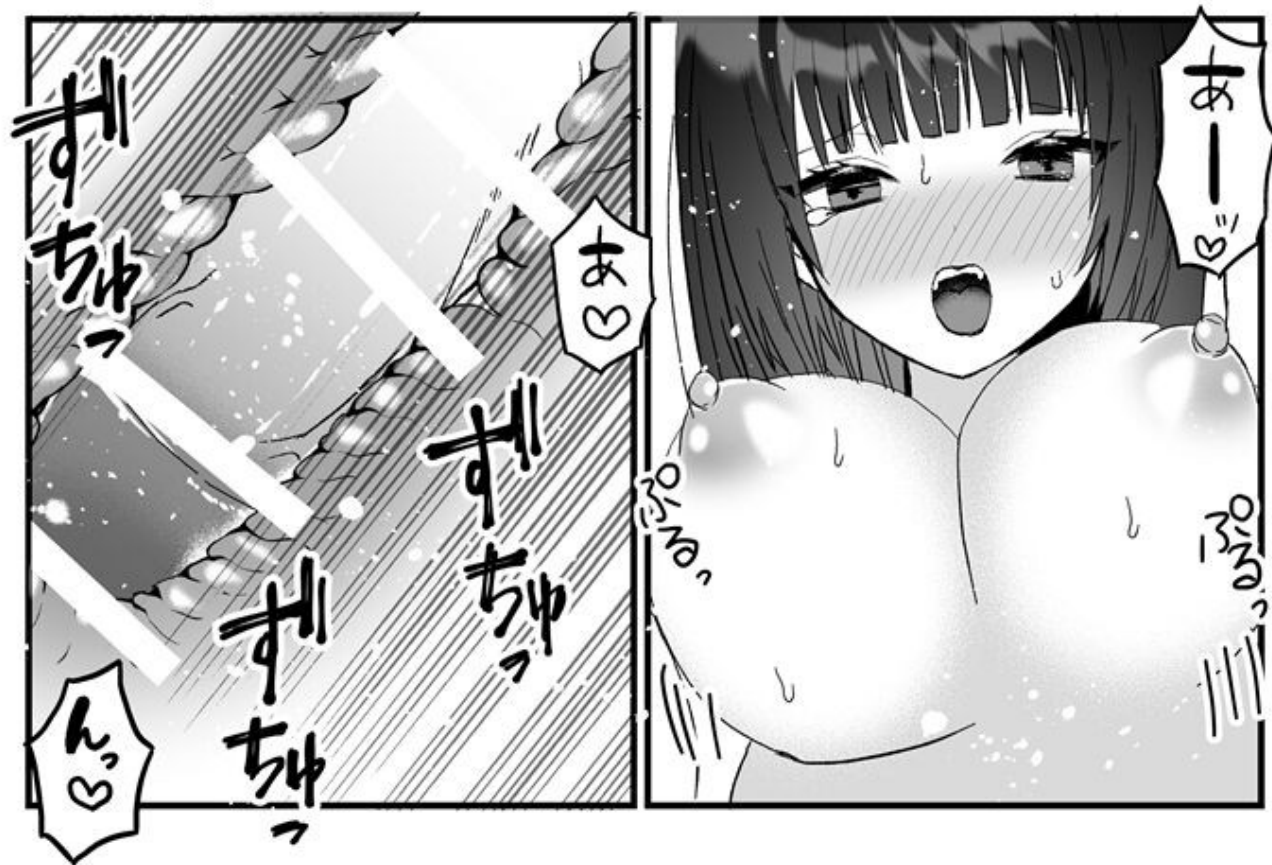
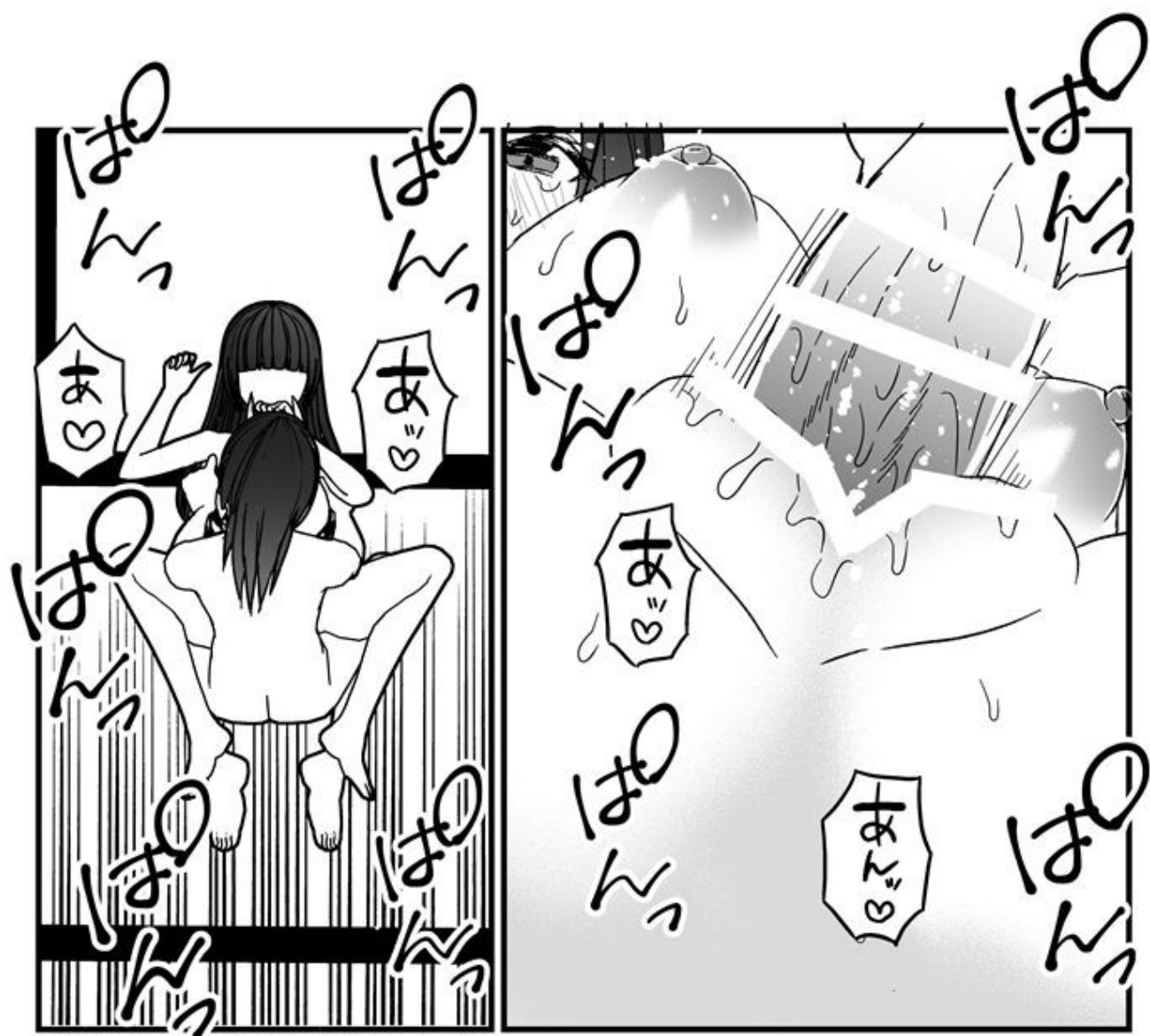






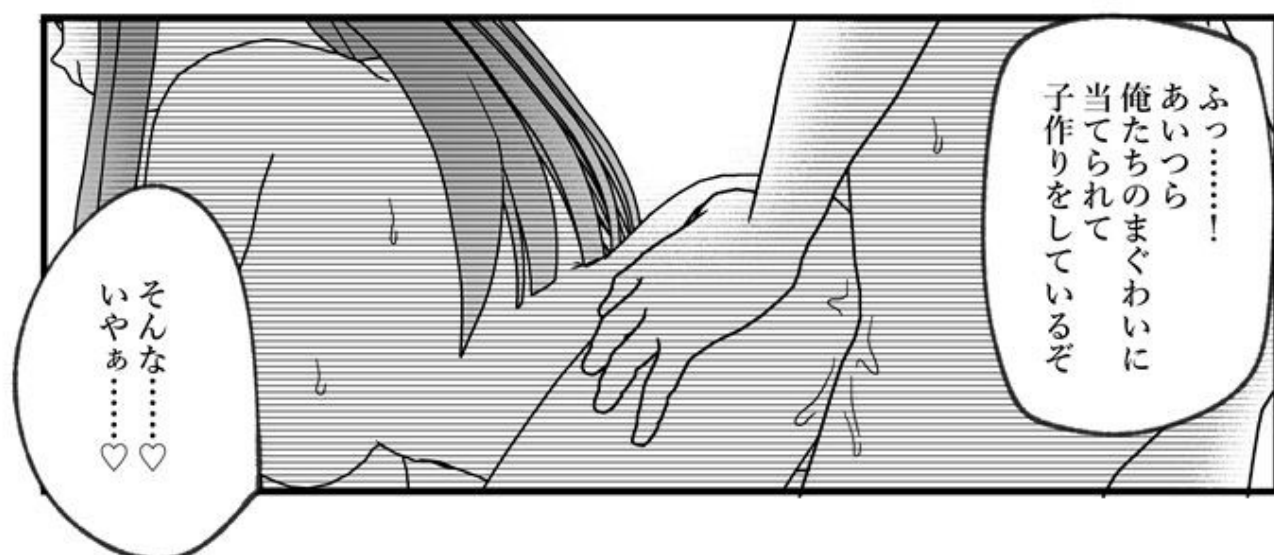
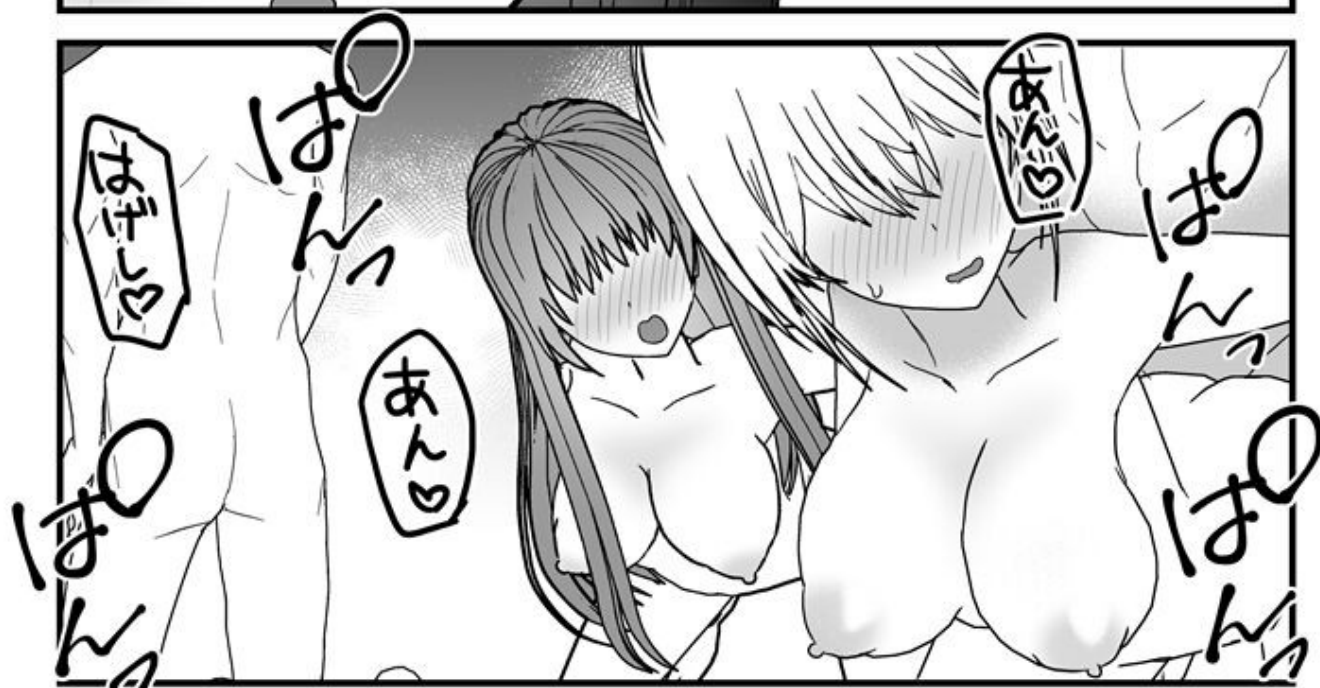










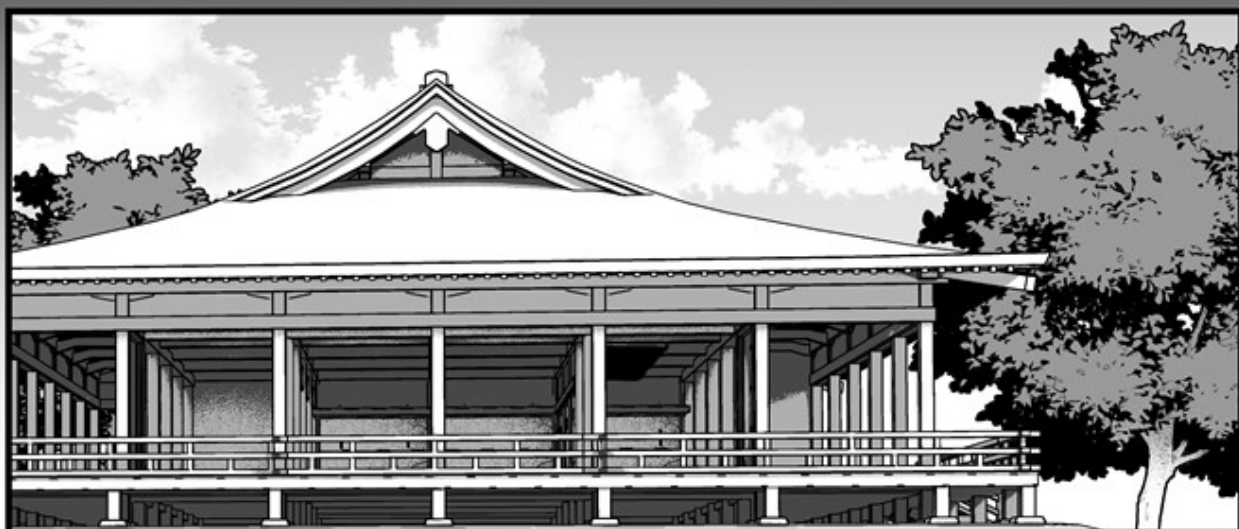








赤ちゃんできちゃう……♡



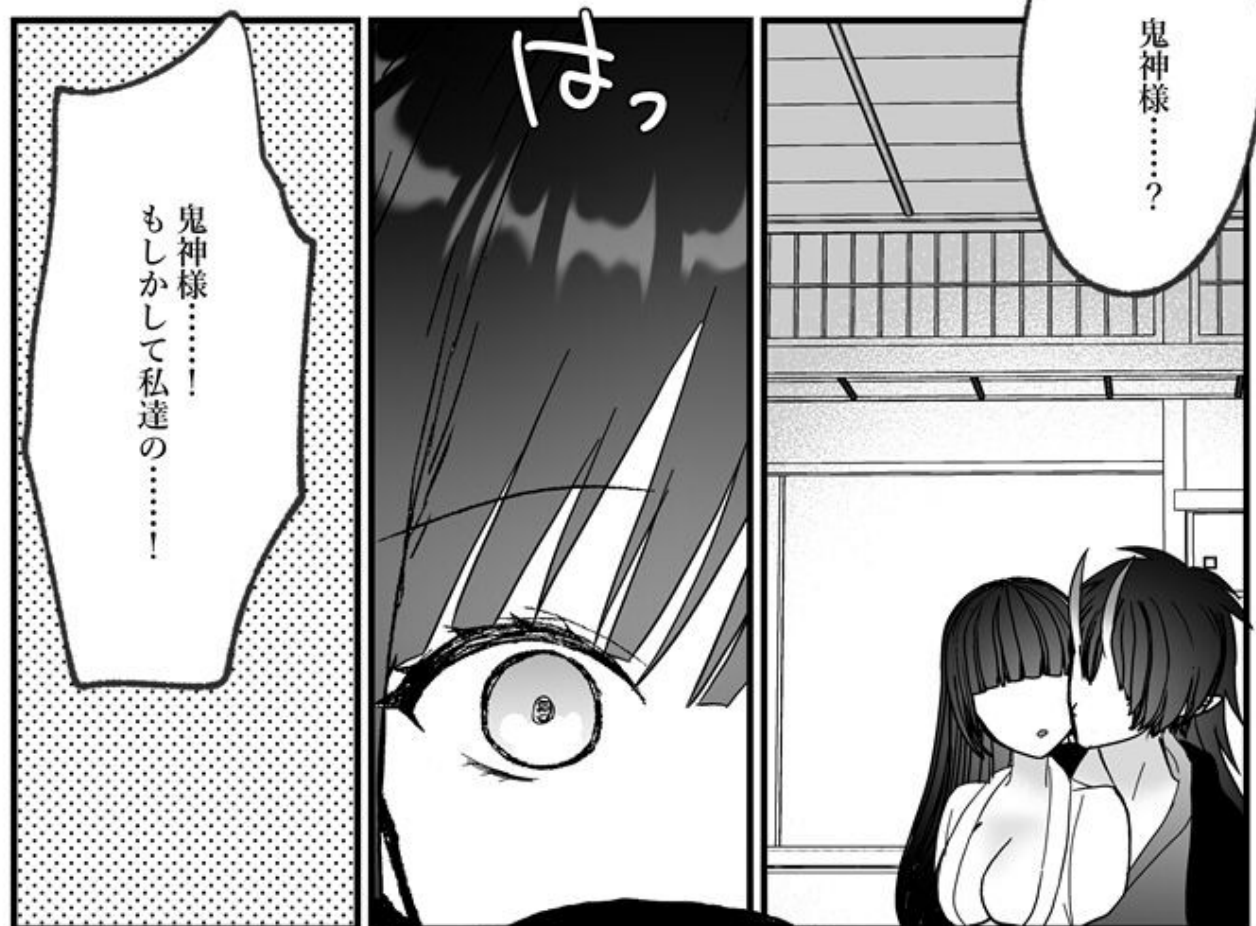




お前のおかげで
俺は長年
待ち望んでいたものを
手に入れることが
できたからな



ありがとう
楓





鬼神様……
大好きです

ああ
俺もだ
愛しているぞ、楓



最初は恐ろしいと
思っていたのに
私はいつの間にか
鬼神様のことを
愛してしまいました

次の年
村中にたくさんの
新しい命が
芽吹くことになり

この奇跡に
村中は歓喜に包まれ
鬼神信仰は
さらに確かなもの
になりました